

平成 28 年 11 月 10 日

各 位

会 社 名 エン・ジャパン株式会社
 (コード番号 4849)
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 孝二
 問合せ先 管理本部長 玉井 伯樹
 (TEL. 03-3342-4506)

第 2 四半期累計期間の業績予想と実績値との差異（連結・個別）及び
 通期業績予想の修正（連結・個別）に関するお知らせ

平成28年5月12日に公表しました、平成29年3月期第2四半期累計期間（連結・個別）の業績予想と実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。また、平成29年3月期通期（連結・個別）の業績予想を下記のとおり修正しましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 平成 29 年 3 月期第 2 四半期累計期間の業績予想と実績値との差異
 連結（平成28年4月1日～平成28年9月30日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 予 想 (A)	14,740	2,530	2,530	1,680	36.92
実 績 値 (B)	14,860	3,928	3,863	2,579	56.69
増 減 額 (B-A)	120	1,398	1,333	899	
増 減 率 (%)	0.8	55.3	52.7	53.5	
(ご参考) 前期第2四半期累計実績 (平成28年3月期)	12,184	2,875	2,927	1,844	40.84

※平成28年4月1日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

このため、参考情報の1株当たり四半期純利益は前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、算定しております。本資料の「2. 平成29年3月期通期業績予想の修正」の参考情報についても同様に算定しております。

個別（平成28年4月1日～平成28年9月30日）

	売 上 高	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 予 想 (A)	10,420	2,270	1,570	34.51
実 績 値 (B)	10,686	3,592	2,499	54.93
増 減 額 (B-A)	266	1,322	929	
増 減 率 (%)	2.6	58.3	59.2	
(ご参考) 前期第2四半期累計実績 (平成28年3月期)	8,094	2,627	1,792	39.68

(差異の理由)

個別の売上高につきましては、好調な応募効果を背景に求人サイトが伸長したこと、転職者の入社が多い4月に人材紹介が好調な紹介実績となったこと等から前回予想を上回る結果となりました。

連結の売上高につきましては、子会社のエンワールド・ジャパン及び海外子会社が予想を下回ったものの、個別業績が順調に推移したことから、前回予想を上回る結果となりました。

利益面につきましては、上述のとおり売上高が増加したことに加えて、オンラインプロモーションの効率的な実施及び人件費が当初想定を下回ったこと等の費用減少により、個別・連結ともに前回予想を上回る結果となりました。

2. 平成29年3月期通期業績予想の修正

連結（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想(A)	32,100	5,700	5,680	3,720	81.76
今回予想(B)	31,110	6,800	6,500	4,400	96.70
増減額(B-A)	△990	1,100	820	680	
増減率(%)	△3.1	19.3	14.4	18.3	
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	26,135	5,118	5,047	2,756	60.79

個別（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回予想(A)	22,600	4,630	3,140	69.01
今回予想(B)	22,870	6,100	4,280	94.07
増減額(B-A)	270	1,470	1,140	
増減率(%)	1.2	31.7	36.3	
(ご参考)前期実績 (平成28年3月期)	17,869	4,496	2,627	57.95

(修正の理由)

個別の売上高につきましては、上期実績が予想を上回ったこと、下期も求人サイトを中心に順当な推移が見込まれることから、期初予想を若干上回る見通しとなりました。

連結の売上高につきましては、子会社のエンワールド・ジャパンにおいて中長期的な観点から組織体制の再構築に、より注力する方針のため、一時的に生産性が低下すること、海外子会社の為替影響を見直したこと等から、期初予想を下回る見込みとなりました。

利益面につきましては、売上高に連動した人件費の減少や業務効率化による人員減等、人件費想定を見直したこと、上期のプロモーション費用の減少を織り込んだこと等により、個別・連結ともに前回予想を上回る見通しとなりました。

以上

(業績見通しに関する留意事項)

上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。